

第41回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会 【今大会レギュレーション（TD通達）】

- 1 **大会運営** 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技運営規定ならびに第41回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会実施要項により運営します。
- 2 **競技規則** (公社)日本ホッケー協会2019年度6人制ホッケー競技規則によります。
- 3 **競技時間** 試合時間は、前半10分・後半10分とし、前後半の間に6分間の休憩をおきます。
- 4 **競技方法**
 - (1) 予選リーグ、決勝トーナメント、フレンドリートーナメントを行います。
 - (2) 参加チームを男子・女子グループに分けます。予選リーグを行い、各グループ第1位・第2位チームによる決勝トーナメント、第3位・第4位によるフレンドリートーナメント戦を行います。
 - (3) 延長戦は行いません。
 - (4) 決勝トーナメントにおいて、規定の時間内に勝敗を決しないときは、「6」に定めるシュートアウト戦を行い、勝敗を決します。(SO戦は試合終了4分後以内に実施します)
- 5 **リーグ方式での順位決定方法**
 - (1) リーグ戦終了時に獲得したポイント数が最も多いチームから順に上位とします。ポイント数は、勝者に3ポイント、引き分けた場合は両者に1ポイント、敗者に0ポイントをそれぞれ与えます。
 - (2) ポイント数が同じ場合は、リーグ終了後、「6」に定めるシュートアウト戦により順位を決定します。なお、同位チームが3チームの場合のシュートアウト戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とします。1位のチームが4チームの場合のシュートアウト戦は、トーナメント方式で実施し、順位を決定します。そのトーナメントの組み合わせは抽選とします。
- 6 **シュートアウト戦（SO戦）**
 - (1) 両チームの監督は、自チーム内よりレッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた出場登録済みの選手の中から3名の選手(シューター)と1名のゴールキーパーを指名します。
 - (2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決めます。その後両チーム3名ずつのシューターにより交互に攻防を1巡り(計6本)、得点数の多いチームを勝者とします。
 - (3) (2)の方法によって勝敗の決しないときは、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数のシュートを行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再シュートアウト戦を行います。この時は、最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き各チームは最初と同じ選手で行います。ただし、順序は変えられます。
- 7 **試合の中断と追試合**

天候等のやむを得ない理由により試合が中断された場合は、下記により試合を再開します。

 - (1) 再開の試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行います。
 - (2) 再開の試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更する場合があります。
- 8 **チームベンチ**

チームベンチには、プログラムに記載された者、同じ種別の団員および救護員4名以外は入ることができません。学校関係者等がベンチに入りたい場合はTDの許可を受けて下さい。
- 9 **フィールドへの立ち入り**

試合中、選手にケガ等が起こった場合は、手当てをする者および監督・コーチどちらか1名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができます。(コーチングは禁止)
- 10 **選手の交代**
 - (1) 選手は、試合中随時交代できます。ただし、ペナルティーコーナーが与えられている間は

交代できません。(負傷した守備側のゴールキーパーは除きます。)

- (2) 選手の交代は、ジャッジ席前方のセンターライン付近で行われます。その際、時間の停止は行われません。ただし、ゴールキーパーおよび負傷者の交代については、審判員の管理下で行われます。

1 1 今年度のルール変更およびスポーツ少年団大会におけるルール確認・配慮事項

＝2019 ルール変更＝

- (1) サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→P Sとなります。
- (2) サークル内における守備側のF Hは、従来通り反則地点のサークルトップ(12m 地点)に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能となりました。
- (3) サークル4 m以内での攻撃側F Hの場合、F Hが即座に行われない場合はサークル内であっても4 m離れなければなりません。(常に4 m 離れようとする指導を奨励)
- (4) PC 終了の条件から「サークル外に2 回出る」の要件を削除します。
- (5) PC において攻撃側のフライングは、罰則としてパッサーがセンターラインに戻されます。
- (6) PC 終了直後に速やかに行われる守備側F Hでは、防具を外さずにパスを出せます。
(ただし、パスの1 プレーが許されますが、ドリブルすることは許されません。)

＝スポ少配慮事項＝

- (1) ハイスティックに関しては、危険防止のため、従来通り禁止とします。
- (2) 振りかぶってのリバースシュートは禁止とします。
- (3) イエローカードの退場時間は2 分間、グリーンカードは警告とする。

1 2 確認事項

- (1) 選手はシャツ(ブラウス)裾を常にきちっと処理し、すね当てを必ず着用し、ストッキングをひざ下まであげて履いて下さい。(ひざをストッキングで隠してはいけません)
- (2) キャプテンは、キャプテンマークをつけて下さい。
- (3) ゴールキーパーは、装具を完全に着用し、アンダーパットもチームの責任で装着してください。
- (4) 試合開始1 5分前にリングパスおよび服装・装具の点検を実施します。なお、メンバーチェックは「登録証」を持参して行い、装具の点検は1 試合目のみとします。
- (5) スターティングリストは試合開始3 0分前までに大会本部に提出下さい。
- (6) チームベンチは、「試合日程」表の左側チームが赤色のリボンのついたベンチを使用します。
- (7) ペナルティーコーナーの保護具は試合開始前にT Oに使用確認して下さい。
- (8) 応援者は、競技場内には一切入れません。(監督から応援者に事前に説明して下さい)
- (9) 全試合とも「ポイントスパイク」の使用は認めません。
- (10) 選手が負傷により出血した場合。頭・顔・心臓付近にボールが当たった場合。審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じられたときは直ちに退場します。止血処理を傷の手当が完了するまでは、再出場はできません。(2分以上の安静が必要です。)
- (11) 「負傷・事故報告書」の提出を課せられたものは、医師による治療後、負傷事故報告書を提出し、T OまたはT Dによる本人の健康確認のうえ、次試合の出場を認めます。負傷事故発生後、試合のないチームは、負傷事故報告書を大会事務局に郵送して下さい。
- (12) 試合開始時間に6名そろわない場合。または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になったときは、その試合を没収試合とし、相手チームの不戦勝とします。
- (13) 乱暴なプレーや審判員に対する不服等、スポーツマンらしくない行為は戒めます。(監督・応援団についても同じです)
- (14) 全国スポーツ少年団ホッケー交流大会において、抗議制度はありません。
- (15) 競技場コートのはさは、長さ5 0 m・幅3 0 mです。
- (16) 選手は活動時、帽子を着用ください。(なお、試合中のみ帽子の着用は奨励とします。)
- (17) その他、本規定に定めのない事項、または熱中症が心配される異常気候や食中毒等不測の事態が発生した場合は、T Dの指示に従って下さい。
なお、競技運営において上記の事態が心配される際には、T Dはスポーツ少年団部会と協議し選手の健康・安全を最優先した措置を講じます。